

平成20年12月9日（火）

○議長（中上良隆君）順番11、23番 井上君。

〔23番（井上勝彦君）登壇〕

○23番（井上勝彦君）23番 井上勝彦、2日目の11番ということで、一般質問させていただきます。議長の許可を得ましたので、ただいまよりさせていただきます。

本日私の一般質問は、橋本市営住宅に関する今後の方針についてでございます。

先ほど来、きのうきょうにわたりまして、福祉・環境・教育、そういう全般に大きく分ければ、全般にわたって一般質問が出ております。市に対してでも、行政に対してでも、非常に難問題がたくさんあるわけなんですけれども、今回私が質問させていただきますこの橋本市営住宅に関する今後の方針について、環境の面とそれから福祉の面から一応質問させていただきますと思います。

本市には、現在市営住宅が36団地927戸、県営住宅が3団地96戸、雇用促進住宅1団地80戸の公営住宅があります。これらは、非常に老朽化をし、耐震問題、それから下水道の引き込みなど、多くの問題や課題を抱えております。その対応が急務であり、また重要であると考えます。

これらの現状を踏まえて、本市ではこの7月、ようやく住宅施策に関する基本方針が制定され、建て替えと改善、維持保全、用途廃止の4手法を基本といたしまして、公営住宅ストック総合改善事業整備計画が出されました。

この計画期間は、本年を初年度といたしまして、平成29年度までの10年計画となっております。そのことにつきまして、私の考えるには、具体的な年次計画というものがはっきりと示されていないというように考えます。

もちろん、削減計画というものにもなっておりますようにも思います。公営住宅の基本理念というか、長年改善や建て替えを待ち望んできた、そういう関係住民の声が反映されておられるかどうか、こういう点について次のとおり質問をさせていただきたいと思います。

1点目につきましては、合併時に両市長が建て替えも含めて住宅施策についての話し合いがあつて引き継ぎされたと思いますけれども、そのことを総合計画に含めて反映されているのかどうか。されていたのか、もし反映されていたのであれば、その点についてお聞きしたいと思います。

2点目につきましては、本市においても財政難やとか今後の維持管理等から見て、払い下げも視野に入れて考えることが大事であると思うんですけれども、そのことについて払い下げについては、国のほうとしても以前と違い柔軟に対応していると聞いておりますが、その払い下げについてもどのようになっているのかお聞きしたいと思います。

それから、現在空き住居が多くあるわけでございますけれども、現時点でどれだけの戸数があるのか、またあいているところの管理はどのようになっているのか。私が見るところによりますと、草が生え、要するにひどいところではイタチが夜入ってくる。もちろん、アブラムシなんかも行き来するというような形になっております。その点について、今後の管理をどのようにしていくのかということをお尋ねしたいと思います。

それから、4点目につきましては、29年度までに市営住宅の必要戸数が555戸ということを出されておられるわけなんですけれども、その根拠、どういうところから出されたのか、お

聞きしたいと思います。

それから、効率的な住み替えの支援について、低所得者の方々とか障がい者、高齢者、ひとり暮らしの方々に対して、今後どのような補助を考えているのか、お聞きしたいと思います。

それから、本来公共住宅の始まりにつきましては、家のない方、貧困層の底上げ対策として建設をされ、福祉目的も政策の中に取り入れながら進めてきたことだと思っておりますが、市がこれまでの住宅政策の評価、反省点についてどのように考えておられるのかということをお聞きしたいと思います。

それから7点目につきましては、老朽化した住宅について、463戸プラス93戸、556戸の入居者における公平性の確保という点から、家賃の見直し等が検討すべきだと思っておりますけれども、当局はどのように考えているのか、お聞きしたいと思います。

それから8点目につきましては、今後ますます高齢化が進む中で、低所得者層、それから障がい者、ひとり暮らしの方々の民間の高齢者住宅に入れられない人たちのために、今後公共住宅の一部を取り入れた施策が大事であると思っておりますけれども、当局の考えをお聞きしたいと思います。

9点目につきましては、以上のことから市の公共住宅のあり方を福祉目的を十分に考慮に入れた住宅政策を根本から見直す必要があると思っておりますけれども、当局の考えをお聞きしたいと思います。

10点目につきましては、これからの公共住宅政策については、建設というものを目的ではなくて、地域社会との関係を保持して、お互いに尊重できる思いやりのある地域コミュニティの形成と地域の実情に応じて、柔軟かつ公平に市営住宅を提供できる総合的な計画のもとに進める必要があると考え、現在の建

設部ではなくて総務部の中の住宅課に機構改革をしてはどうかと思っておりますが、当局のお考えをお聞きしたいと思います。

以上で壇上での質問を終わります。あとは、質問席から質問させていただきたいと思っております。

○議長（中上良隆君）23番 井上君の一般質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

○企画部長（吉田長司君）公営住宅については、福祉を含め、総合的施策の中で行うのがふさわしく、その所管については総務部の住宅施策として機構改革の一環に取り入れてはとのおただしでございますが、本市の市営住宅ストック総合計画では、現在927戸ある市営住宅の管理戸数のうち、用途廃止、建て替えなどで555戸とする計画が立っている一方、良好な団地を確保しながら、また高齢者世帯については優先枠を設けるなどの配慮をしているところであります。

今後は、長期総合計画にも記載してありますとおり、市営住宅の適切な管理等に努めることとし、良質な住宅環境の確保に向けて、必要に応じて検討してまいりたく考えておりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

○議長（中上良隆君）建設部長。

〔建設部長（樽井豪男君）登壇〕

○建設部長（樽井豪男君）市営住宅のご質問にお答えいたします。

1点目のご質問につきましては、橋本市営住宅ストック総合活用計画の策定に当たり、合併協議事項にある市営住宅の建て替えについては、現在市の財政状況考慮の上、今後検討していくこととなっております。

2点目のご質問につきましては、公営住宅の譲渡処分承認基準に適合し、入居者（原則

としてその全戸の入居者)がその譲渡を希望しており、かつ譲渡の対価の支払い能力があること、また再建築可能であることが要件となります。団地ごとの状況を勘案して、対応してまいりたいと考えています。

3点目のご質問につきましては、平成20年11月末現在において、空き家住宅の戸数は156戸、内訳といたしまして、用途廃止計画団地30戸、棟の集約計画団地106戸、個別改善または維持保全団地20戸となっています。

個別改善または維持保全団地の空き住宅については、予算の範囲で修繕を行い、入居者募集を行っていきます。用途廃止計画団地、棟の集約計画団地については、入居者及び地元地域と調整を図り、管理戸数の削減を図りながら周辺の環境対策に努めたいと考えています。

4点目のご質問につきましては、橋本市営住宅ストック総合活用計画で、現在927戸ある市営住宅の管理戸数を372戸削減し、555戸とするストック計画については、橋本市長期総合計画基本構想に示す人口フレームをもとに、過去の国勢調査値の傾向から、世帯数及び持ち家、民間、借家等の推計値を算出し、市営住宅の将来必要戸数を推計しました。

5点目のご質問につきましては、建て替えに伴う新たな住宅の家賃は、公営住宅法施行令第11条による激変緩和措置により、6年間で新家賃にすり合わせることとなります。

また、建て替えに伴う入居者の移転については、通常必要な移転料を支払うこととなります。

6点目のご質問につきましては、法の目的にのっとり市営住宅の役割として、低所得者で住宅に困窮している者に対し、住戸を確保してまいりました。実際の入居者については、入居後生活の基盤を築き、財力を蓄え、持ち家を購入され、転居された方もいます。

反省点といたしましては、長期にわたり家賃滞納者が増えたことです。これについて、現在法的処置を含め、滞納整理を進めています。

7点目のご質問につきましては、現在の家賃については、建設年度や住宅設備等により、団地ごとに家賃を算出しております。また、入居者が負担することになる使用料としての家賃は、世帯の所得に応じて決定しております。以上のことから、そもそもの設定家賃が異なるものであり、不公平な取り扱いとはなっておりません。

8点目のご質問につきましては、住宅に困窮し、低所得者世帯を対象に入居募集を行っています。また、高齢者世帯については、同一団地等で2箇所以上募集する団地があれば、優先枠を設け、抽選の機会を増やすなど配慮に努めています。

9点目のご質問につきましては、公営住宅法等に基づいて、管理・運営を行ってまいります。

○議長(中上良隆君) 23番 井上君、再質問ありますか。

23番 井上君。

○23番(井上勝彦君) ちょっとお尋ねしますが、副市長、ストック活用総合計画というストックというのはどういう意味ですか。ちょっと教えてください。

○議長(中上良隆君) 副市長。

[副市長(清原雅代君) 登壇]

○副市長(清原雅代君) ストックというのは、ためるとか、保つとか、そういうような物をストックするというんですか。蓄えるというか、そういうような意味だと思います。

○議長(中上良隆君) 23番 井上君。

○23番(井上勝彦君) 私が言いたいことは、このストックというこの言葉自体が、やはりこの公営住宅というのは、福祉を目的に建て

た住宅ですね。このストックというのは、品物などをためていく、今、副市長言われたとおりです。在庫品ですね。在庫品とも言う。手持ちの品。在庫です。在庫を整理するんやという、こういう計画だということを私はこのストックという言葉はあまり気に入らんですが、在庫品。その処分。こういうことで、やはり公営住宅の、要するに改善とかそういう日本語で改善をして、そしてなお推進していくんやというそういう総合計画にやっぱりそういうことを根本から考えてほしい。

いうのは、これはストックというのは、もうこれつくったものは仕方がないと思いますけれども、これはやっぱり考え直してほしいなど。在庫品ということ、あまり僕はうれしくないんです。

それから、この前私今10点ほど疑問点をただしていただいたんですけど、疑問点。総合計画については、下水道の普及。これ今何箇所、どことどことどこというか。何戸。何戸ほど普及されて、あと何ぼ残っていますか。下水道。公営住宅ですよ。公共施設ですからね。下水道はやっぱり推進していかなあかんですけれども、いくら進んでおりますかね。

○議長（中上良隆君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず、市営住宅の公共下水道の接続状況でございますが、まず公共下水道の接続済み団地というのは、あけぼの団地、神野々住宅、岸上住宅、野団地、東家団地、原田A団地、原田B団地、原田C団地、原田改良、伏原団地4階、計11団地でございます。

今後、接続予定団地といたしましては、伏原第2、第3、第4、第5、名古屋第3団地、脇之田第2団地、名古屋改良、計7団地で年次計画を立てて接続してまいりたいと思っております。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）このストック計画では、今言われた11団地ですね。284戸が今完成されておるといことですね。常に引かれていると。そして、あと7団地というのは、67戸ですか。今言われた7団地の67戸が今後下水を引く予定やと。下水を引くのはいつですか。いつからやられるんですか。

○議長（中上良隆君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず、21年度で公営住宅4団地の26戸。それと22年度で、公営住宅2団地11戸。並びに改良住宅34戸ということで、21年、22年をつなげる計画であります。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）そうしますと、今先ほど空き戸数が言われました156戸あいているということですね。156戸のうち、要するに20戸は比較的いいところにあるので、今後募集をしていくと。156戸あいているところを20戸募集するということは、136戸はもう全然だめやということですね。今のところ。そういうことになりますかね。

○議長（中上良隆君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず、このストック活用計画の中で、個別改善また維持保全団地という意味で募集を行う団地として20戸の予定でございます。

なお、用途廃止、棟の集約の団地の中で、用途廃止計画については、そのうちの空き家戸数は30戸、棟集約の団地については106戸と。これについては、一応募集をかけていきません。なお、この中で、もし住宅を棟の集約の中である程度変えていくとかという形の中の計画も一応21年度でやっていきたいなどは思っております。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）そうしますと、部長、このストック計画は、もともと156戸が空き家

であるので、要するに927戸というよりも、現在の入居戸数は771戸ということになるわけですね。771戸ですか。それで、結局空き家が156戸あるので、要するに771戸を555戸にするということになるわけですね。要するに、771戸しか今現在入っていないと。927やけども、全然これはもう今使っていない。もう、大変になるから早くこぼさないかんという。ばらばらに入っているから、結局こぼさないんでしょうけども、集約をしていくということでしょう。771戸しか今現在入っていないと。771戸の中から、要するに555戸にすると。こういうことですね。

○議長（中上良隆君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず、このストック活用計画につきましては、やはり今現在管理戸数から一応割り出しまして行っております。

なお、今議員おただしの空き家の部類につきましては、特に廃止計画の団地が30戸ということで、それは将来目標の中ではゼロにしたいということでございます。

それと、棟の集約計画団地につきましては、今現在357戸のお住まいですけども、これを2017年度には184戸に減らしていきたいということで、実質空き家の数からいけば、そういうふえておられる方もいたしますが、やはり最初の計画といたしましては、全体の管理戸数から持ち家の件数、並びに橋本市全体の民間の借家状況、また県営住宅の戸数とかというのを加味する指数の持つ中で、こういった設定をしております。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）今現在住まれております用途廃止計画団地というのが、実質は93戸になっていますけども、現在63戸とそれから集約していくと。集約を。それが357戸。結局184戸にということになると、216戸の入居し

ている方が結局、216戸残りますわな。今現在入っているんやから。216軒の方々はどういうふうな配置をしていくんですか。行くところのうなってしまうんやど。今入っているだけでもですよ。それはどういう計画になっているか、ちょっと教えてください。

○議長（中上良隆君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず、入っている方を今どこかに移っていただくとか、全体の中で、まず棟の集約等の中では各団地の空き家状況はどの場所があいているとかというようなのがまずあります。

そこで、もし五戸連で一つか二つあいて、もしこちら側の棟で一戸しかお住まいでないという場合については、一つはこちらのほうにも住んでいただいた中で、もう1個の一つの棟自身がもしあきましたら、そういったところを除却なりをいたしまして、またそれに対しての払い下げ等はそれで適合するかというような形で、ある程度の棟の集約の中で考えていかざるを得ないと思っております。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）部長、この計画は要するに463戸ある、集約をしようとしている463戸の棟が184戸に10年間に減らすんでしょ。減らしていくとなったら、要するに今現在空き家ですから63戸と357戸ということになるんやけども、そうなりますと要するに184戸になったら、差し引き216軒の方が、集約するといったら結局463戸のやつが184戸にここでするんやから、要するに63軒と残り184戸引いたらもれてきますやん。216戸入っていますやんか。全部その人がどこぞへ移転して勝手に出てくれるのやったらいいけども、216軒今住んでいますやろ。その人を10年間にどういふふうに出してもらいような計画をするかということを知っているんですよ。

集約と言ったって、百八十何軒にするんで

しよ、これ。四百何軒のやつ。現在入っていますやんか。216軒の人を要するに771軒と勘定してですよ。216軒の住んでいる方が自然に10年間でなくなるんですか。

○議長（中上良隆君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず、この計画の中では自然の減ともう一つは今年間1年間で、約35世帯の方、この2カ年もそうなんですけれども、一応持ち家を取得されて出ていかれる方というのも調査もしております。恐らくその中で、約30軒程度毎年外に持ち家を持たれて出ていった中で、そういったこともカウントに入れまして、約10年間で自然減とそれとそういった持ち家を、ちょっと言いにくいんですけども、そういった形と持ち家を持たれて行かれる方というのがおりますので、そういったことも視野に入れて、この用途廃止の部分と棟の集約については一応考えております。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）持ち家で30軒も出ていくというのは、どんな勘定をしているのか知らんけども、この今現在771戸の住宅のうち、比較的まあまあここ10年ぐらいは差し支えないやろうという住宅が結局三百何ぼしかないんですよ。351。あとはもう全部これは全然住めませんわ。

副市長、住宅1軒1軒いっぺん何回か回られたことありますか。何回ぐらい行かれました？

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）住宅のほうを通りかかったことはありますけども、中のほうはあえて見て回るといふか、そういうような取り組みは現在のところできておりません。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）私はなぜ総務課に移すべきかということは、やはり幹部の方に住宅

927軒、空き家が156戸、市長でも3役の方、いっぺん住宅の実情をやっぱり見ていただきたい。なぜかといいますと、これは市は環境を悪くするために市というものは考えているんですか。市長は花いっばいで美しく環境をよくすると。市の公営住宅がどれだけ悲惨な建物であるかということをやっぱり目で見て、住んでいる方にやっぱり話を聞いてもらう。話をする。そして、悩みとかそういうものをやっぱり。僕はずっと回りますと、ここに書かれた10点、これ書いてあるのは僕が書いたのと違うんですよ。住んでいる方の話を聞いてほしいとまとめたんですわ。

例えば、高野口、伏原といっぺんに住宅が増えましたので、大変だろうと思いますけれども、いっぺん副市長、市長でも結構です。市長が忙しかったら、副市長でも結構ですから、いっぺん兵庫住宅とか真土住宅、特に西之島団地、東明団地、主に東家の住宅、いっばいありますけども、ホテルももう来年建設しますけど、市の公営住宅の環境の悪さ。これはやはり抜本的な改革計画を立てると、橋本に住んでよかったまちには絶対なりません。私はそう見ております。

やっぱり、建設課というところにつきましては、一生懸命頑張っていますよ。それは努力していますよ。家賃のくれないところ、毎月きっちり取り立ても行ってね。それはやっています。しかし、やはり住んでいる人の悩みとか、ひとり暮らしがどれだけの悩み事があるかということですよ。出たいよと。出たくても、やはり優良住宅には入れないんですよ。老人用住宅というのがあちこちに建っていますけどね。入るのだったら、やっぱり10万円ぐらい要るんですわ。1カ月。なかなか入れないです。

こういう公営住宅の安いところを改築、改善して、低所得者用のそういう高齢者、あま

り広いところは要らないので、要するにいわば在宅でヘルパーさんを派遣して自立をして、お年寄りに住んでいただくという高齢者用の住宅というのはその意味を言っているんですけども、副市長、老人ホームを建設したら、50床で、私も建設課でやってたことある、橋本もそうです。1人で2,500万円要るんです。12億5,000万円最低でね。50床の施設をつくろうと思ったら、2,500万円要るんですよ。そういう十二、三億円かけやんと50床の老人ホームはできないです。今までそういうことで、国も県もあまり増やしていくと介護保険料が上がるので、やはり老人向け住宅ということで変えてきましたね。福祉政策そのものが。それは、安く自立をしていけますので。

だけでも、そこへも行けませんと。だから、そういう公営住宅を安い家賃で提供して、そして在宅で介護する。そしたら、介護保険も上がらない。上がらないんですよ。その公営福祉のサービスというのは、そういうところを原点にしないと何ぼ介護保険、施設はいいのを建てよう、建てようと言って建てたら、介護保険料が上がると、こういうことになっている。からくりはそうなっているんですよ。

ですから、そういうことを含めて771戸の住宅を抜本的に改革して、たとえ100人でも困った人に対する提供をしていくという、そういう総合的な計画を見直しをなさいと。してはどうですかということをご提案しているんですけど。

企画部長、もういっぺん答弁してください。

**○議長（中上良隆君）** 企画部長。

**○企画部長（吉田長司君）** このストック総合活用計画ですか。これにつきましては、その目的と位置づけに書いてございますように、これは整備計画の基本計画でございます。ということで、この中にはいつごろ実施するか、財政的な裏づけも書いてございませぬし、時

期的なものもちょっと載っていないかと思われれます。

ということで、これにつきましては将来の必要戸数ということで、積極的に追い出すということじゃなしに、必要戸数を人口から割り出して、必要戸数というものを出しまして、現状の市営住宅をどうしていくかという考え方でございます。

そういうことで、少なくしていくんだという観点からじゃなしに、めりはりある住宅としていくという中での廃止するものは廃止する。それから、残していくものは残していく。それから、改築していかなものは改築していくというような考え方でございます。悲しいかな、実施計画と財政的なものと具体的なものがここに書かれていないので、その辺がわかりにくいということでございます。

そういうことでございまして、これが実施するに当たりまして、私の答弁がそういうふうに、総務部というのはちょっとなじまないと思いますけれども、これは市内部で関係する部署を集まった中で協議してどうしていくかという手法を含めて話をしていかなということでございますので、その時期が21年度ぐらいにあらうかと思っておりますので、そのときについてはそういう関係部局をあわせて協議をしていきたいと。必要に応じては、そういう部署もつくる、必要があればつくっていきたいと考えてございますけれども、橋本市には住宅課ということがございますので、その中で中心に企画、それから福祉、下水道課というところも出てきますかな。そういうところを集めた中で協議して、どうしていくかということを決めていきたいと考えてございます。

**○議長（中上良隆君）** 23番、井上君。

**○23番（井上勝彦君）** さすが企画部長だけに早く判断していただいたと。私は認識が早いなど。本当になかなか。そのとおりです。

やっぱり、企画部長、住宅の実情というものは把握しますと、これは早いとこやらかなあかんなど。それでまただいたい現場へ行きますと、若い方はほとんどおりませんわ。おりません。若い方がおるのは、今言われておる371戸の中の平成7年度に建てた戸数これ何戸かあるんですけど、伏原第2団地、第3団地、平成7年あるんや。平成7年度にね。その分については、家賃も高うても若い子は入っています。環境がいいから。

一番いいところは、私もかかわったんですけども、28戸の伏原団地第4団地。これ4階建てです。4階建てでエレベータをつけました。そして、下にはお年寄り、2階には若い子2人暮らし、世帯の大きい人は5人ぐらい広いところ、3階、4階。こういうふうにして、計画的に28戸できています。今。

長谷工マンションが前にあるねん。14階。それにもう絶対まさるとも劣りません。全国から、これ見本でしょ。全国から毎年その公営住宅を見にきてくれとるわけですね。橋本市もそういう住宅が28軒あるんですよ。橋本市。いっぺん見にきてください。ごみ一つないです。建て増しもしていません。

あれはものすごい30軒悲惨なところあったんですよ。それが、がらんともう環境がよくなって、住んでいる方の意識が変わりまして、積極的にごみももう一つところへ集めて、分けやなあかんなどというて分けてもくれるし、市長言われているように、ごみもきちっと分けて、空き瓶缶もきちっと分けて、それはまあ本当にびっくりするほど、ええ、そういういいところがあります。

そやけども、それ以外は住宅は入ったら本当に建て増しは自由にさせてある。もう公営住宅の本体よりも、高さもばらばらやし、それはもう間から、雨戸があつて間から壁から雨が降ったらざあと流れている。階段、バケ

ツ受けてね。そういうところがほとんどなんですよ。それで、非常に環境という面からやはりこの771戸のうちの420戸、最低でもこの420戸の改善をいち早くやっぱりきちっと総合的に今吉田企画部長が言われたように福祉も含めて、ひとり暮らしのそういう方々のそういう希望も入れた中で、福祉関係でしたら十二、三万円出したらこういう手すりなんかも皆つくる。トイレも全部いける方法もあるし、建設課だけじゃなしに、福祉課のほうからも引っ張ってくる。何も引っ張ってきたら、要するに1軒何ぼ要するというのわかるんやから、そういう形でやはり老人住宅、低所得者用の老人向け住宅として50戸でもつくったら、施設50戸12億5,000万円もかけやいでも、そこで自立して住んでいただけるし、在宅でヘルパーさんが行けば介護保険も上がらへんと。そういう形になるんですよ。

総合的にやっぱり考えるべきだと僕は思いますので、そのことを強く今言って、要求しておきます。

それで、そのことを建設部が悪いと言うんじゃないんですよ。取り組んでいることについては、なかなか精いっぱいのことをやられてあると思うんですけども、建設課だけではないなかでできやんことがあると。そういうことがありますので、ぜひ機構改革じゃなしに総合的な住宅対策をきちっと整えてほしいということを全般的に申し上げておきたいと思えます。

最後に、市長のちょっとご所見を聞かせていただいといます。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）井上議員の再質問にお答えをしたいと思います。

本当にいろいろの建設的なご意見が数多くいただきまして、ありがとうございます。



私も選挙をしているものですから、それも真土の住宅から大野の嵯峨谷の端の住宅まで全部知っております。しかし、温度差があるんですね。非常に家々に行きますと創意工夫されて環境改善というか、中でもうまくきれいにされているところもあって、上がらせてコーヒーもよくよばれるわけですが、さて市としても非常に生活の困窮家庭の入所しておる率が非常に高い。高齢者の方々が高いということも確かでございますし、先ほどから申されるように、福祉政策から見た住宅施策というものをこれはやっぱり大事であると。特に、高齢者の皆さんを抱えているものですから、特に木造住宅ですな。もうそれで売れる物は私は処分していこうよと。できるだけね。そうして、いい物はまた存続していくようにして、できるだけ橋本市の住宅政策はこうやというものを内部でも検討してございますので、ひとつまた指導、ご助言いただいて、取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（中上良隆君）23番、井上君。

○23番（井上勝彦君）これで一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（中上良隆君）これをもって23番 井上君の一般質問は終わりました。

この際、2時40分まで休憩いたします。

（午後2時21分 休憩）